

各水試発トピックス

浜が黄金色に輝く!

平成25年4月3日に、檜山北部地区水産技術普及指導所の徳田耕貴主査から、「せたな町の海岸が黄金色に輝いている!」との連絡がありました。海岸の石が、まるで金色の塗料を塗ったように、上部が黄金色に輝いていました(写真1)。フノリ採取に来てこの黄金色の石を発見した大島裕子漁業士の話では、「これまで80年以上生きてきて、海岸がこれほど見事に黄金色に輝く光景は見たことがない」とのことでした。

この石を水産試験場で観察したところ、「ウシケノリ」*Bangia fuscopurpurea*という海藻が付着していることが分かりました(写真2)。ウシケノリは、波打ち際の岩の最上部に付く、細い糸状の柔らかい海藻です。ウシケノリの名の由来は、三陸地方で「ベコノリ」と呼ばれていたことによるといわれ、確かに牛(三陸地方の方言でベコ)の背中毛のようにも見えます。

ウシケノリ(ウシケノリ属*Bangia*)は世界中の海に広く分布し、分類学的には、日本人の食生活になじみの深い「ノリ(海苔)」「アマノリ属*Pyropia**)

と近縁です。どちらも目で見える配偶体の世代と、顕微鏡的な糸状体(孢子体)の世代を交代します(*DNAレベルでの分類の見直しから、2011年以降、日本のアマノリ属の大部分がポルフィラ*Porphyra*属からピロピア*Pyropia*属に変更になりました)。

日本では、昔食用にされていたようですが近年は利用されておらず、一方、中国南東部沿岸では養殖され、食用にされているとのこと。

ウシケノリは、主に暗い赤紫色をしています、淡黄色までの色の変化があり、淡黄色になったウシケノリを乾燥するとウルシ状の光沢を放ちます。しかし、これほど黄金色に輝いて見えるのは珍しく、明確な理由は分かりませんが、今年は生育に好適な環境条件で、たくさんのウシケノリが繁茂したためではないかと思われます。今年は、岩ノリ(スサビノリ、ウップルイノリ等)の繁茂も良いとのこと。浜が黄金色に輝き、今年は縁起の良い年になるかもしれません。また何か興味深い情報がありましたら、お知らせください。

(赤池章一 函館水試調査研究部)



写真1 黄金色に輝く石を発見!
(檜山北部地区水産技術普及指導所提供、フノリ採取に来た大島裕子漁業士、せたな町瀬棚区島歌)

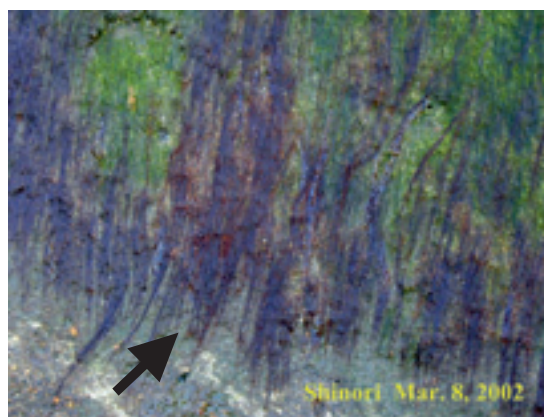


写真2 岩に着生しているウシケノリ
(元函館水試金子孝氏提供、「北の海藻図鑑」より
<http://www.ne.jp/asahi/marine/algae/>)